

## 行財政運営分野

### 【背景】

- 本市の財政（※1）は、中核市平均よりも高い水準を維持しているが、人口減少に伴う税収の減少や普通交付税の合併算定替の終了等によって歳入の減少が懸念されており、また、少子化対策や高齢化に伴う福祉ニーズの拡大、新たな都市基盤の整備、公共施設等の老朽化対策等により、歳出のさらなる増加が見込まれている。
- 本市においては、これまでも職員数の適正化（※2）等の行財政改革を進めてきたが、今後、地方分権が進むことによる事務量のさらなる増加や、国が進める働き方改革などの新しい仕組み・制度に対応しつつ、複雑化、多様化する市民ニーズに応じた行政サービスを提供し、市民の信頼に応えていく必要がある。
- 本市は、昼夜間人口比率が100.5%（※3）と100%を超える中核性を備えた都市としての特性を活かし、近隣の7市8町と連携協約を締結して、一定の圏域人口を有する、活力ある社会経済を維持するための圏域を形成し、その拠点となる連携中枢都市となった。今後とも、播磨圏域の連携市町との広域行政を通じて、地域の実情に応じた取組を行い、着実に成果を上げることが求められている。



### 【分野目標】～持続可能な行政サービス～

限られた財源や人員で、効率的かつ利便性の高い行政サービスを提供することができるよう不断の行財政改革を行うとともに、広域行政の仕組みを効果的に活用することによって、市民から信頼される持続可能な行財政運営を目指す。

### 【分科会用 語句説明】

#### ※1 姫路市の財政状況の推移

##### ○経常収支比率

財政力の弾力性を測定する指標で、低ければ財政運営に弾力性があり、政策的に使えるお金が多くあるとされている。（姫路市財政課 HP）

##### ○財政力指数

地方公共団体の財政力を示す指数として用いられるもので、数字が大きければ大きいほど財政的に豊かであるといえる。（姫路市財政課 HP）

#### ※3 昼夜間人口比率の他都市比較

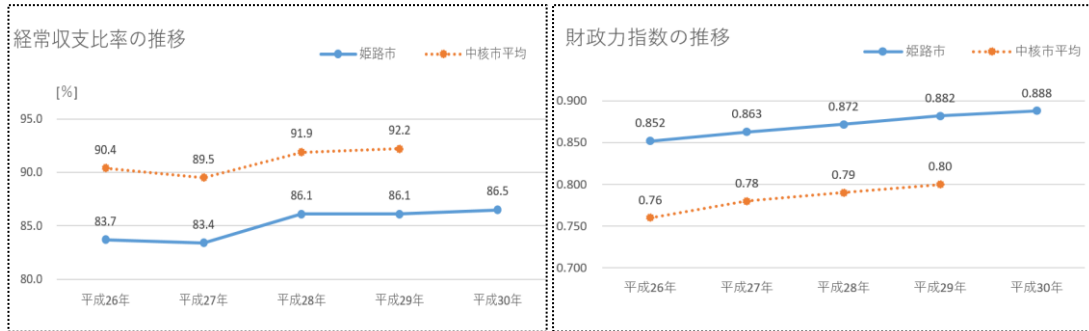
##### ○昼夜間人口比率

夜間人口（常住人口）100人当たりの昼間人口の割合であり、100を超えているときは、通勤・通学の流入超過、100を下回っているときは流出超過を示している。（総務省統計局 HP）

### ※1 姫路市の財政状況の推移

本市の経常収支比率は、中核市平均が90%前後で推移する中、80%台と中核市平均より低いが、悪化してきており、財政の硬直化が進んでいる。

一方、本市の財政力指数は、中核市の財政力指数の平均が0.7台であるのに対し、0.8を超えており、本市の財政力は中核市平均よりも強いと言える。



※平成30年度の中核市平均の数値については、国において集計中

(資料) 姫路市財政課及び地方財政白書資料編より

### ※2 姫路市定員適正化計画の進捗状況

市職員数に関する現行の定員適正化計画では、行政ニーズに対応できる職種別構成の適正化の観点から、職種ごとに数値目標を掲げ、適正配置に取り組んでいる。限られた人的資源を有効に活用するため、各所属からのヒアリングを十分に行い、業務量を把握しつつ、任期付職員や再任用職員を活用しながら適切な人員配置を行ってきた。平成31年4月1日時点において、目標値を達成するペースで進捗している。

(単位：人)

職種		H26.4.1	H27.4.1	H28.4.1	H29.4.1	H30.4.1	H31.4.1	R2.4.1
行政職	計画	2,250	2,255	2,268	2,281	2,297	2,316	2,343
	実数	2,241	2,288	2,294	2,301	2,306	2,320	
技能労務職	計画	704	690	671	652	630	605	574
	実数	703	682	663	649	631	603	
消防職	計画	551	557	559	561	563	565	565
	実数	551	550	553	560	562	560	
教育職	計画	297	295	293	291	289	287	285
	実数	294	286	284	284	278	278	
合計	計画	3,802	3,797	3,791	3,785	3,779	3,773	3,767
	実数	3,789	3,806	3,794	3,794	3,777	3,761	

(資料) 姫路市人事課より

### ※3 昼夜間人口比率の他都市比較

昼夜間人口比率(%)	
姫路市	100.5
尼崎市	96.8
明石市	89.6
西宮市	90.0

(資料) 中核市市長会「都市要覧(平成30年度)」より作成